

平成28年度 学校弓道指導者講習会（北信越・東海・近畿対象）報告

7月23日（土）・24日（日） 京都市武道センター弓道場

主任講師 佐竹万里子 範士八段

講師 坂本 武彦 教士八段

参加者30名

（新潟3，長野3，石川1，福井1，静岡2，愛知3，岐阜4，三重5，滋賀3，京都5）

【感想】

主任講師は石川県の方にも講師でお越しいただいている佐竹先生でした。私自身佐竹先生と坂本先生にご指導いただくのは初めてでしたが、非常に適格なご指導で大変良い講習会となりました。

佐竹先生の話で、学校教育に関わる指導者は弓道初心者の真っ白な用紙に初めての手形を入れ、この初めての手形がその人の一生に関わっていくためよい指導に心掛けなくてはいけないということ。また、色というのは混ぜるとどんどん汚い色になっていくので、きれいな色を塗りたければ白紙にして塗る。これと同じように、教わるという面では、心を真っ白にして、相手の言うことを素直に聴くことが大切ということ。この話が特に印象に残りました。私自身教員という人生としての仕事に携わった限り、このことを大切に日々自分自身も高めていかなくてはならないと思いました。坂本先生は、射技はもちろん道具など幅広い知識をお持ちで、なるほどという話がいたるところで伺うことができました。また、受講生と一つの射礼を行っていただくなど、射技指導においても幅広い知識で大変勉強になりました。

私は佐竹先生には射技指導で、意識が取懸けに行ってしまうので、常に姿勢など全体を意識すると教えていただき、今まで確かにそうになっていたと、非常に基本的なことかもしれないかもしれませんが私にとって非常に大切な部分を指導していただけたと思います。また、坂本先生には、大三で背中を意識し、下弦を取り胸を力まず開いてくることも教えていただき、これもまた私にとって非常に重要なことでした。教えていただいたことはこれ以外にもたくさんありますが、どれも適格な非常に素晴らしいものでした。

学校教育に関わるという立場で今回のような非常に恵まれた講習に参加させていただいて、教員という立場は非常に恵まれていると再確認しました。この恵まれた環境でより成長していきたいと思えますし、子どもたちにさらにより手形を押せる指導ができるように自分自身を高めていきたいと感じています。また、京都府弓道連盟の方々には今回の講習会の裏方のお世話をさせていただき、大変感謝いたします。誠にありがとうございました。

京都は祇園のお祭りとお重なり、いつもより賑やかそうな様子でした。そのためかホテルの方も少なく、今回初めてゲストハウスという一部屋に何人も泊まるところに宿泊しましたが、これも非常に安くてよかったです。いろいろとまたよい経験をさせていただいた講習会でした。このような機会をくださりありがとうございました。

七尾東雲高校 山田 敏寛